

ナカラ回廊農業開発研究・技術移転能力向上プロジェクト (ProSAVANA-PI)

成果概要

1. プロジェクト目標 ナカラ回廊地域に適正な農業技術が開発され、技術移転がされる
2. プロジェクト期間 2011年5月～2017年11月（6.5年間）

活動実績

<研究体制強化> 対象：北東地域農業試験場（ナンプラ）及び北西地域農業試験場（リシंगा）

施設の整備

- ✓ 既存施設・機材の整備、新規研究機材の導入
- ✓ ナンプラ試験場における土壌・作物分析実験室の建設
- ✓ 施設・機材の利用・メンテナンスに関する研修の実施

試験場の運営方法の改善に対する助言

- ✓ 運営ガイドラインの作成

研究者の研究能力向上

- ✓ 土壌・作物分析研修、キャッサバの生産/研究についての講義等（研究員のべ250名が参加）
- ✓ 普及員を対象としたセミナー及び研修、研究成果計画検討会、ナカラ回廊農業研究発表会等での成果発表



<対象地域の自然資源と社会経済状況の把握・評価>

- ✓ 土壌・植生の評価、気象データの収集・分析、水資源・地勢データの収集・分析
- ✓ 小規模農家の社会経済状況にかかる調査・分析
- ✓ 上記に基づく農業生産ポテンシャルの評価、土地利用計画の提案

<土壌改善技術及び作物の適正栽培技術の開発>

- ✓ 適正品種（メイズ、馬鈴薯、豆類等）の選定
- ✓ 土壌保全技術の検証（最少耕起、残渣マルチ、等高線栽培等）
- ✓ 施肥技術の検証
- ✓ マニュアル類の策定

<新しく開発された農業技術の 現場への移転>

- ✓ 普及員及び農家への情報共有・研修
- ✓ 農家による適切な作付け体系選定のための意思決定支援モデルの作成



ナカラ回廊農業開発研究・技術移転能力向上プロジェクト (ProSAVANA-PI) 成果概要

特筆すべき活動・成果

1.研究能力の強化

- ✓ 研究成果計画検討会に普及員と農家に参加してもらい、農業研究についての意見や要望を聞き取った。これにより、現場のニーズを意識／反映した研究計画の立案が行なえるようになった。
- ✓ 研究員によるテーマ提案型研究が行われた。「ビタミンA強化サツマイモの生産を通じた小規模農家の栄養改善」、「農民参加によるインゲンの優良品種選抜試験」など農家の裨益を意識した研究が実施され、収量の増加も確認された。

2.普及員及び農家との知識の共有

- ✓ 普及員及び農家を対象とした研修には、普及員のべ393名、農家のべ1,004名の合計1,397名が参加。

3.開発された技術の効果

- ✓ 以下のような具体的な効果を生み出す技術が開発された。

技術	効果	
作物残渣のマルチングと すき込みによる土壌改良	トウモロコシ収量	2.4 t /ha → 4.5 t /ha (Nampula試験場) 1.0 t /ha → 1.7 t /ha (Muriaze支所)
	ダイズ収量	0.6 t /ha → 0.8 t /ha (Nampula試験場) 0.3 t /ha → 0.45 t /ha (Muriaze支所)
最少耕起	土壌侵食量40-91%減少 生産コスト・労力の削減 純利益500 - 3,000MZN/ha増加	
作物残渣マルチング	土壌侵食量50-95%減少 干ばつ害の軽減 純利益1,500 - 4,000MZN/ha増加	
トウモロコシとダイズの 間作	トウモロコシ収量の増大効果の確認 干ばつの影響が緩和 Land Equivalent Ratio (LER)が20-50%増加 (単作と比較し高収量)	
トウモロコシとダイズの 輪作	トウモロコシ収量が54-49%増加	

(MZN:モザンビーク通貨)